

もうすぐ進級おめでとーいになります！

万物の生き生きとした息づかいに心はずむ春。子供達も新しい学年に向けて新たな希望に胸を膨らませていると思います。心も体もぐんぐん

成長して、夢も希望も大きく広がっていきます。

あたたかい春の陽ざしに息を吹き返したように、万物が活動し始める春。自然の恵みを讃え、生物を慈しむ心を子らと共に見つめたいものです。

【春分の日、春季皇霊祭・神殿祭】三月二十一日

春分の日、毎年、三月二十一日か二十二日、この日は昼と夜の長さが同じで、その後しだいに昼が長く、夜が短くなっていきます。春分の日を中日として、前後三日ずつ、計七日間を仏教で彼岸といいます。春分の日には太陽が真東から出て、真西に沈むというので、この日、仏道に精進すれば西方浄土・極楽へ往けるといふ訳です。そこで寺参り、お墓参りをして先祖を偲びます。私達の命の根であるご先祖の方々に感謝し、家族皆で手を合わせることは、先祖から受け継がれてきた大切な慣わしです。祖霊みたまをまつる慣わしは、古い日本の信仰と仏教思想がむすびついたものです。



これと同じ意味の大きなお祭りが皇室でも代々行われています。それは、春季皇霊祭・神殿祭で、春分の日に斎行されるお祭りです。皇室の御先祖である歴代天皇・皇后・皇族に対する皇霊殿での御先祖祭り(皇霊祭)と、天神地祇・八百万の神に対する、神殿での神恩感謝のお祭り(神殿祭)からなります。宮中では、一年に大小合わせて百以上の祭祀をされ

ますが、その中でも重要とされる大祭は、七つあり、春季皇霊祭・神殿祭はその大祭の一つなのです。お釈迦さまの話【花まつり】四月八日

四月八日は、お釈迦さまのお生まれになった日です。お釈迦さまは紀元前五六六年、インドに生まれました。お釈迦さまの説いた教えは、その後世界中に広まり、多くの人々を悩みや苦しみから救いました。お釈迦さまの誕生についていろいろ不思議な言い伝えがあります。お釈迦さまが生まれる時、お母さんは、白い象(神様のお使い)がおなかの中に入る夢を見たとか、生まれた時すぐ七歩歩いて「天上天下唯我独尊」と言ったとか、易者にみてもらったら、転輪王という偉い王様になるか、出家して精神界の王である仏陀になると言われたそうです。

お釈迦さまは王様の家に生まれたのですが、人間は病気になったり、悩み苦しんだりして、やがては死んでしまう。何とかこの悩みや苦しみから人間を救いたいと思いました。そして、王様になるのをやめて家を出してしまふのです。そしていろいろな先生を訪ね人間を幸せにする道を学ぶのです。しかし、どの先生もお釈迦さまが納得のする道を教えてはくれませんでした。仕方がないので、お釈迦さまは一人山にこもり、断食をしたり、滝に打たれたりいろいろ難行苦行をしました。七年も修行すると、体はやせ細って今にも死にそうになりました。そんな時、通りかかった村の娘さんが、お釈迦さまにどうぞ飲んでくださいと、ミルクがゆを差し出したのです。感謝と共に呑み込んだ時、お釈迦さまは、心がパツと明るくなり、今までの悩み苦しみが一瞬に消え、悟るのです。人間は肉体でなく、目に見えない命であることに気づくのです。そして人間が悩み苦しんでいるのは、人間の心の持ち方に原因があると

悟ります。沢山の人がお釈迦さまのもとに教えを聞きに来、教えは弟子から弟子へと伝わっていきました。お釈迦さまが亡くなった後、中国へ伝わり、千五百年くらい前に日本に伝わりました。今、世界で一番仏教が盛んなのは日本です。禅の教えも日本から世界中に伝わっています。

花祭りには「花御堂」の中に甘茶をたたえをおき、釈迦の誕生仏を安置する祭です。その仏像は、右手で天を指して「天上天下唯我独尊」と唱えています。「我はかけがえない絶対存在のひとりだから尊い」と、すべての人間の尊厳を示す姿で、「独尊」とは、自分も他人も皆、仏性を持って生まれた、という喜びの声なのです。



ワンポイントアドバイス

人間は、習慣が服を着て歩いている存在である」とも言われています。

何を食べるか」大とどう関わるか」など私たちは一つ一つ考えて行動するというより「つものように」やっている事に気がつきまます。

思考に気がつけること。

それはいつか言葉になるから。

言葉に気がつけること。

それはいつか行動になるから。

行動に気がつけること。

それはいつか習慣になるから。

習慣に気がつけること。

それはいつか性格になるから。

性格に気がつけること。

それはいつか運命になるから。

(幸せになる勇氣)より超訳 マザー・テレザ もりたまみ著

# 和歌コーナー



かるたとり みんなで つくったさくひんだ

くふうをしたよ おもしろかった

年中 M・S

☆みんなで工夫しながらつくった神話かるたであそんで、楽しかったですね。



おしゅうじで とりつてかいたよ たのしかった

おもしろかったよ もっとかきたい

年長 Y・K

☆いっしょうけんめいお習字を書いていたね。楽しく集中して書いていた素晴らしいです。

かるたとり いちばんさいしょにとったのは

ぼくがかいたえなんだよ

年長 K・S

☆翔平君は「このはなさくやひめ」がもえる火の中から子どもを産んだ場面をかいてくれました。すごく上手で、びっくりしましたよ。

おかあさんが インフルエンザにかかったよ

げんきになって よかったなあ

年長 H・H



☆病気のお母さんのことを心配する颯君のやさしい

気持ちが伝わってきて、心があたたかくなりました。

すいせんは さむいふゆにさくんだよ

白ときいろで とてもきれいだ

小学三年 H・A

☆さむい冬でも、いい香りをただよわせて、りんとして咲いているすいせんは、本当に美しいですね。



お母さん いつもいろいろ たいへんだ

時にはゆつくり 休んでほしい

おさんぽで いっぱい植物 見つけたよ

めずしいのも みつけてみたい

トトロ(かなへびの名前)はね 小さいけれど

かわいいな もっといっぱい 成長してね

小学三年 J・R

☆お母さんの心のこもったおりょうりを毎日食べられて幸せですね。

帰り道 友達といっしょで 楽しいよ

おしゃべりしたよ いろんなことを

小学三年 M・A

☆学校の帰り道、友達と仲良くおしゃべりしながら歩いている愛子ちゃんのがんこが浮かんでます。



## 今月の論語

子、曰わく

「故きを温ねて

新しきを知れば、

以って師と為るべし。」

(現代語訳)

孔子がおっしゃった。

「昔の人の教えや過去のことについて

学習し、そこから新しい考え方や取り組み

方を見つければ、人を教える先生

となることができる。」

(解説)

昔のできごとや、昔の人の考え方をよく

学びましょう。それを毎日の過ごし方に役立

てましょう。昔と今、古いものと新しいも

の、それぞれによい所がありますね。よい

先生とは、その両方がよくわかっている人

をいいます。

「親子でたのしむ こども論語塾」

(ポプラ社より)

次回は、四月二十八日(土)です。

(文責・藤波)